

2012年度 中間期決算 決算・ビジネスハイライト

株式会社新生銀行
2012年11月9日

2012年度 中間期決算のポイント

2012年度目標に対する進捗率50%、計画達成に向け順調に推移

1

- 連結中間純利益: 257億円 (1株当たり中間純利益:9.70円)
- 同キャッシュベース純利益: 306億円 (同キャッシュベース:11.56円)
- 一株あたりの純資産: 220.70円
- ROE/キャッシュベースROE: 8.9%/11.6%

コア業務資産を着実に積み増し、基礎的収益力が安定

2

- 住宅ローンは順調に推移し、2012年9月末残高は初めて1兆円を突破
- 新旧レイクビジネスの合算貸出残高が6年ぶりに純増(9月単月)
- 法人向け業務におけるコア業務の貸出資産積み増しも堅調
- 銀行本体の業績も伸長し、連単倍率も大きく低下

利益の積み上げと資産の質の改善が自己資本比率の向上に貢献

3

- 利益の着実な積み上げと自己資本控除項目の減少により資本が増加
- 資産の質の改善によるリスクアセットの減少も比率向上に寄与
- 不良債権額は200億円以上、その他要注意先も400億円近く削減(2012年3月末比)

中期経営計画:最終年度中間期までの進捗

2010年度

収益安定化に向けての体制整備

2011年度

新たな業務展開による
収益多様化への取り組み

2012年度

巡航速度での安定的収益の確保

2012年度の重点施策

個人向け業務

- **リテールバンキング**
 - ✓ 円貨・外貨の資金調達基盤の更なる拡大
 - ✓ 住宅ローン新規取り組みの拡大による貸出資産の積み上げ
 - ✓ 多様な投資商品の提供によるアセットマネジメントサービスの展開
- **コンシューマーファイナンス**
 - ✓ 「新生銀行カードローン レイク」の新規顧客獲得と貸付残高の伸長
 - ✓ 新生フィナンシャルの保証業務提携の更なる推進
 - ✓ アプラスフィナンシャルのショッピングクレジット、クレジットカード、決済事業の拡大

2012年度中間期までの進捗

- **リテールバンキング**
 - ✓ 円預金は仕組預金の満期償還により残高減少するも、外貨預金は取扱通貨の拡大などにより着実に積み上げ
 - ✓ 住宅ローンは順調に推移し、9月末残高は1兆円を突破
 - ✓ 投資商品販売などによる非資金利益は低調
- **コンシューマーファイナンス**
 - ✓ 新規顧客獲得は新生フィナンシャルの前年同期比+22%
 - ✓ 金融法人本部と連携強化し、アプローチ先を拡大
 - ✓ 「新生アプラスカード」の開始やマンチェスター・ユナイテッドとの提携カード発行、「Tポイント付きオートクレジット」の取扱開始等、新商品への取組強化

法人向け業務

- **顧客基盤の拡充**
 - ✓ インフラ関連のプロジェクトファイナンスを中心に国内外アセットの増強
 - ✓ 新規開拓の継続推進
 - ✓ 中堅中小企業へのコンサルティング機能の強化
- **当行の特色ある業務の更なる強化**
 - ✓ VBI推進の一環として、新事業領域および地域振興への積極的取り組みや成長企業へのマネジメント・ソリューションの提供を目的としたビジネス・インキュベーション業務の展開
- **金融法人顧客への多面的・多角的な取引推進**
 - ✓ 新事業や地域振興を通じてのコワーク推進
 - ✓ 金融商品などソリューションの提供

- **顧客基盤の拡充**
 - ✓ 外銀の日本を含むアジア・パシフィック圏からの撤退・縮小に伴う売却案件に選択的に取り組み優良資産を積み上げ
 - ✓ 新規開拓は計画を上回るペースで進捗
 - ✓ YES BANKと法人向け業務に関する包括的な業務提携を締結し、顧客の海外進出支援機能を強化
- **当行の特色ある業務の更なる強化**
 - ✓ 「ふくしま成長産業育成ファンド」への投資などVBI関連の具体的案件が実現
- **金融法人顧客への多面的・多角的な取引推進**
 - ✓ 新生フィナンシャルの個人向け無担保ローン保証業務の地域金融機関への紹介を推進

2012年度 中間期決算概要：業績

(単位：10億円)

- 2012年度中間純利益は、通期業績予想の50%の進捗
- 第1四半期に続き非経常的な要因の影響は小さく、基礎的収益力の改善を反映した業績

【連結】	2011年度 中間期	2012年度 中間期	2012年度 予想	進捗率
業務粗利益	105.6	104.1	218.0	48%
資金利益	60.7	56.1	115.0	49%
非資金利益	44.9	47.9	103.0	47%
経費	63.3	63.7	133.0	48%
与信関連費用	8.8	6.2	18.0	34%
中間(当期)純利益	20.3	25.7	51.0	50%
同キャッシュベース ¹ 純利益	25.6	30.6	60.0	51%
ROE	7.3%	8.9%	9%弱	-
ROE(キャッシュベース ¹)	10.3%	11.6%	10%強	-
【単体】				
実質業務純益	10.8	18.7	35.0	53%
中間(当期)純利益	4.5	15.6	22.0	71%

2012年度上期の進捗

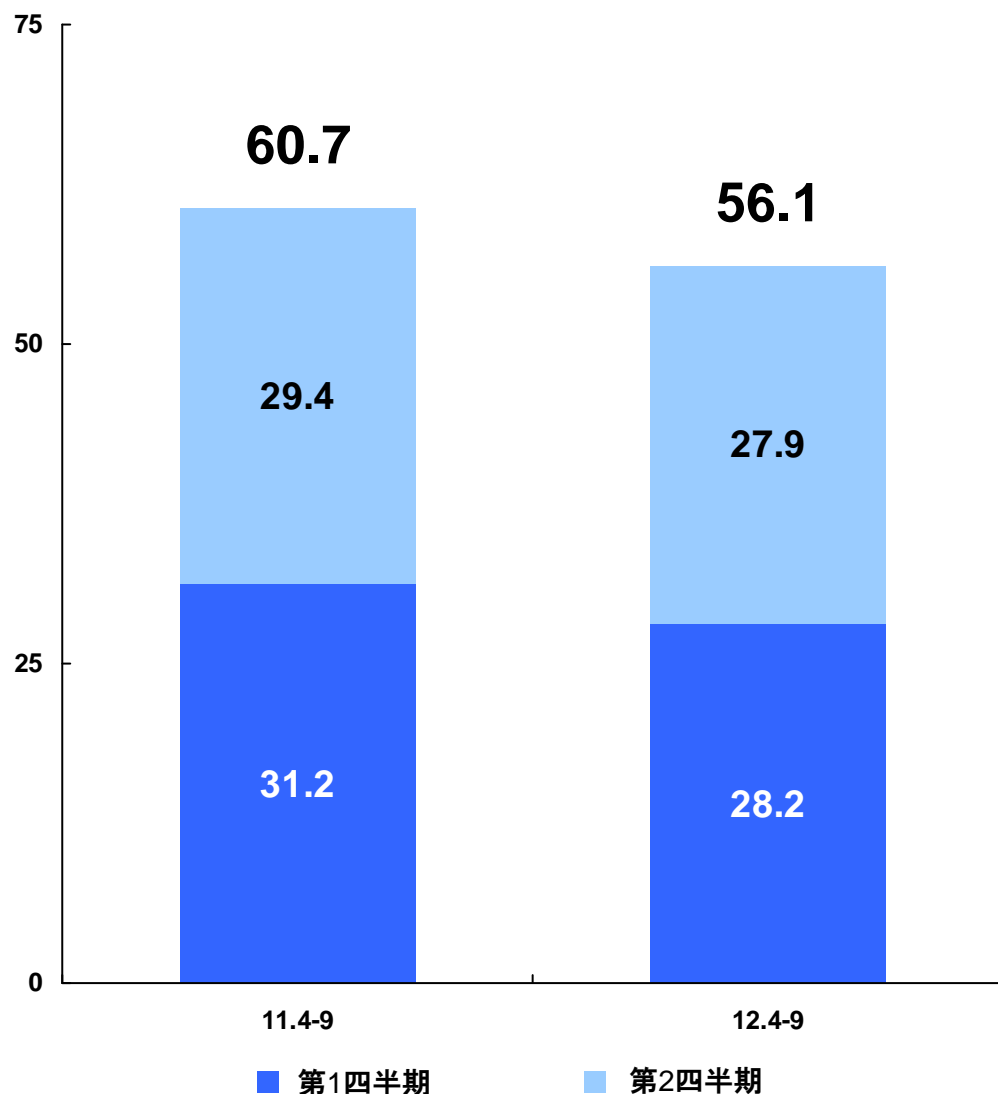
- 業務粗利益は前中間期比で15億円減少したものの計画比では順調な進捗
- 経費は概ね計画通りの進捗
- 与信関連費用はコンシューマーファイナンス業務において、貸出残高が減少し、債権の質も改善したこともあり、前中間期比25億円の改善
- 結果、中間純利益は通期予想の50%を達成

¹ 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

業績の状況：業務粗利益(資金利益)

(連結、単位：10億円)

- 銀行本体の貸出資産が増加、消費者金融ファイナンス子会社の貸出資産減少ペースも緩やかになったことから、資金利益の減少ペースも大幅に縮小



法人部門・金融市場部門

- 法人部門は、コア業務の貸出資産の増加もあり、前中間期の127億円から17億円増加し、当中間期は145億円、この内法人営業本部の資金利益は前中間期の43億円から当中間期は52億円へと着実に増加
- 金融市場部門は、前中間期と変わらず当中間期も15億円

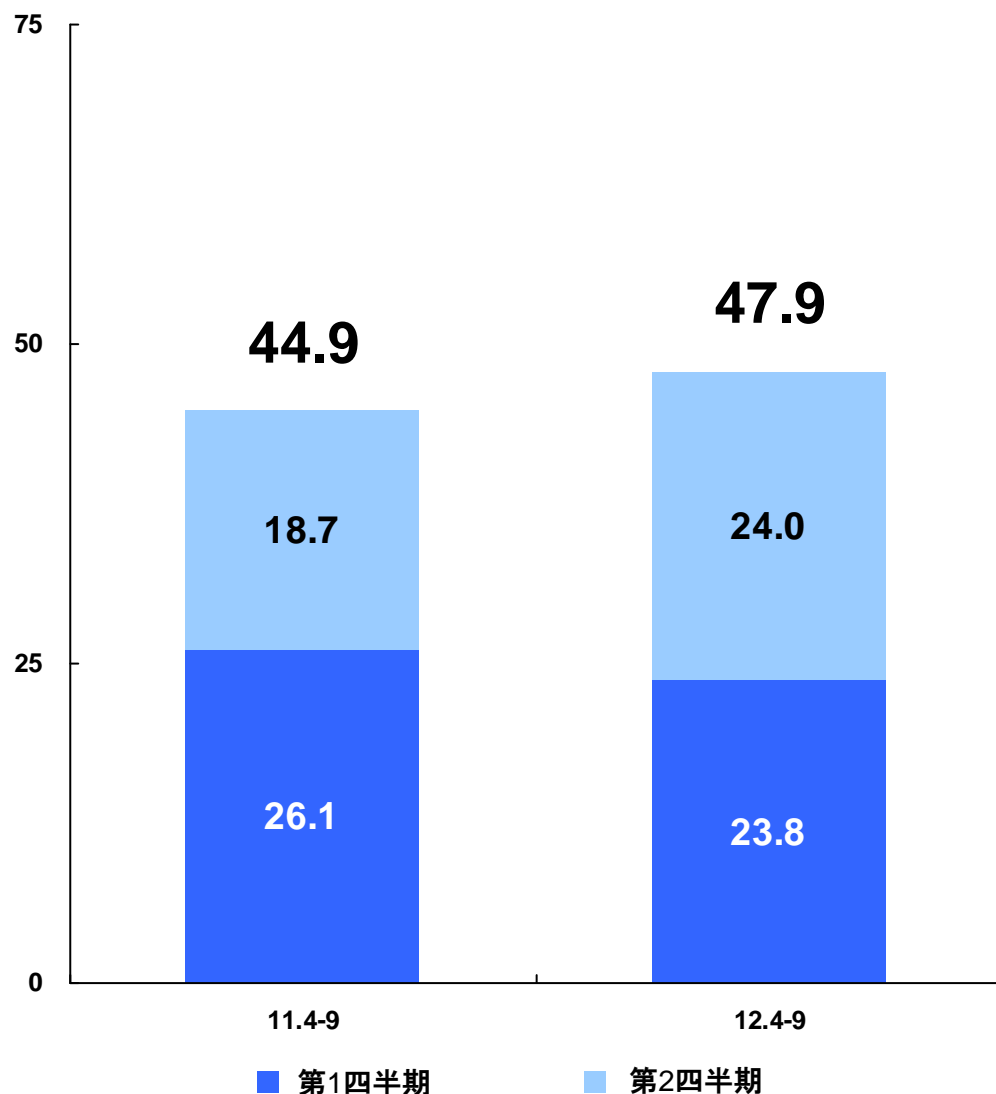
個人部門

- リテールバンキングは、市中金利の低位推移により預金にかかる資金利益が減少したことなどから、前中間期の153億円から21億円減少し、当中間期は131億円
一方、貸出からの収益は前中間期の31億円から当中間期は34億円に増加
- 消費者金融ファイナンスは、前中間期の366億円から67億円減少し、当中間期は299億円

業績の状況：業務粗利益(非資金利益)

(連結、単位：10億円)

- 非経常的要因が減少したことから2012年度は非資金利益が安定的に推移
- コア業務において、法人のお客さまとの取引からの収益が堅調



法人部門・金融市場部門

- 法人部門は、前中間期の197億円から27億円減少し、当中間期は169億円
- 金融市場部門は、前中間期の40億円から19億円増加し、当中間期は60億円
- 当中間期は不動産ノンリコース・ファイナンス関連社債の減損9億円など非経常的な要因は限定的

個人部門

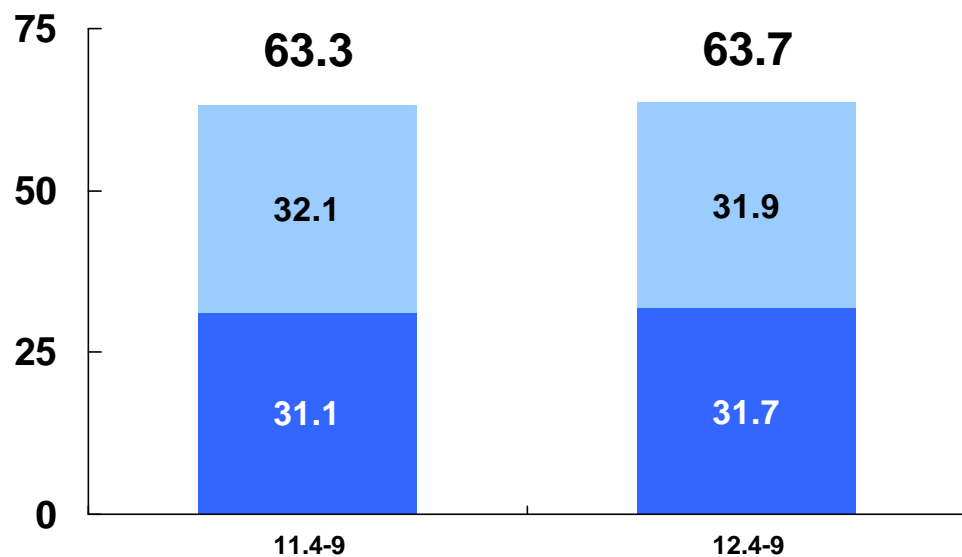
- リテールバンキングは、前中間期の39億円から3億円減少し、当中間期は35億円
- コンシューマーファイナンスは、アプラスフィナンシャルでショッピングクレジットや決済事業などの取扱高の着実な増加により非資金利益が増加したことから、前中間期の156億円から11億円増加し、当中間期は168億円

業績の状況：経費・与信関連費用

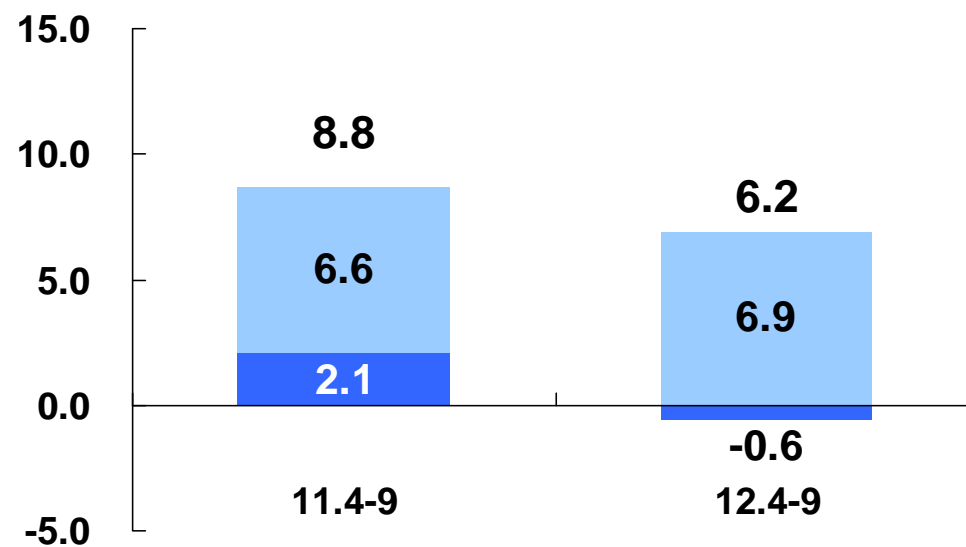
(連結、単位：10億円)

- 経費は、前中間期比4億円の増加
 - ✓ システム関連の設備投資にかかる減価償却の影響もあり前中間期比で微増
- 与信関連費用は、前中間期比25億円の減少
 - ✓ コンシューマーファイナンス業務における貸出残高減少と債権の質の改善
 - ✓ 国内不動産ノンリコース・ファイナンス関連において44億円の追加繰入を計上

経費



与信関連費用



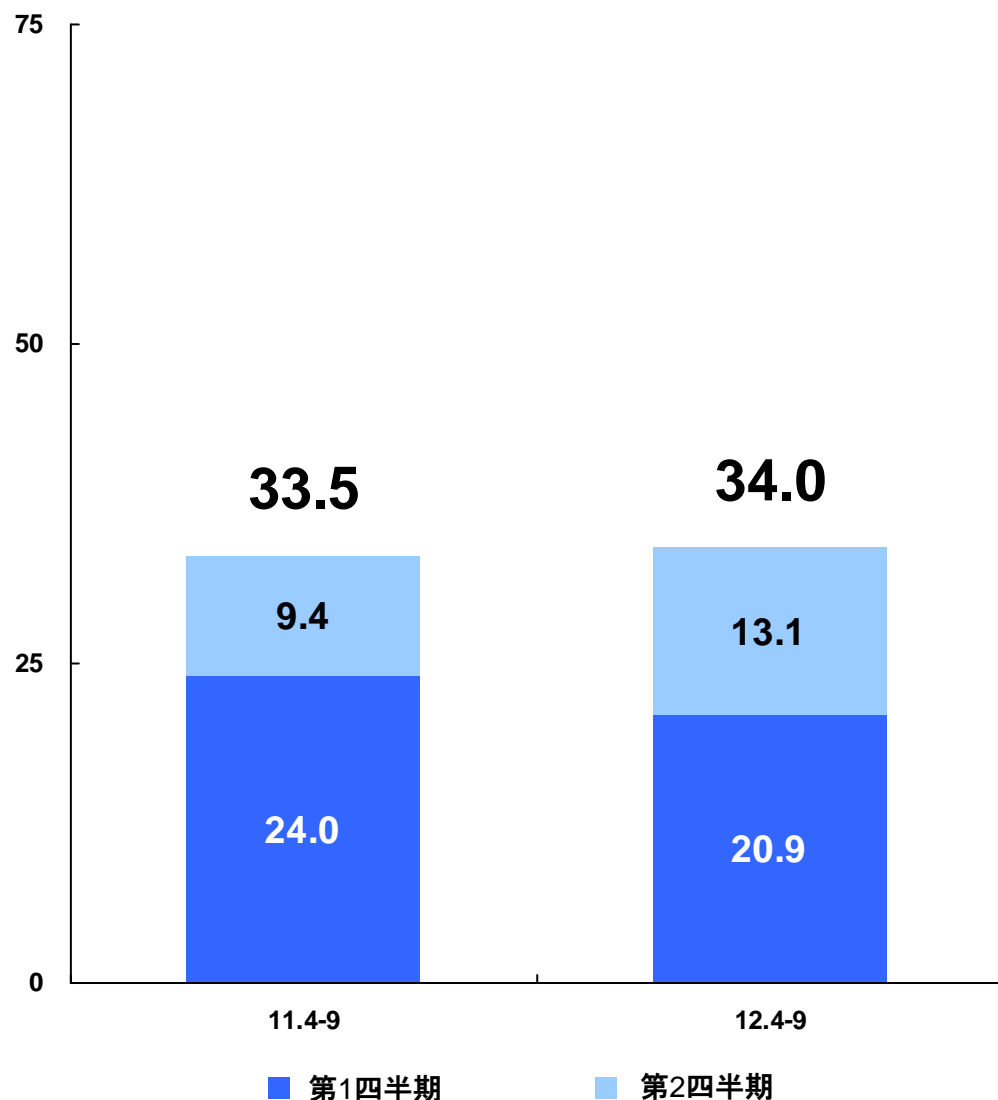
■ 第1四半期

■ 第2四半期

業績の状況：与信関連費用加算後実質業務純益

(連結、単位：10億円)

- 業務粗利益の減少と経費の増加を、資産の質の改善による与信関連費用の減少が相殺



法人部門・金融市場部門

- 法人部門は、前中間期の168億円から7億円減少し、当中間期は161億円
- 金融市場部門は、前中間期の28億円から19億円増加し、当中間期は47億円

個人部門

- リテールバンキングは、前年同期の25億円から11億円減少し、13億円
- コンシューマーファイナンスは、前中間期の154億円から46億円減少し、107億円

経営勘定/その他

- 経営勘定その他は、国債売却益の増加もあり、前年同期の41億円の損失から52億円改善し、10億円の利益を計上

非経常的な損益要因：業績への影響は限定的

(連結、単位：10億円)

■ 2012年度中間期も、引き続き非経常的な損益要因の業績への影響は限定的

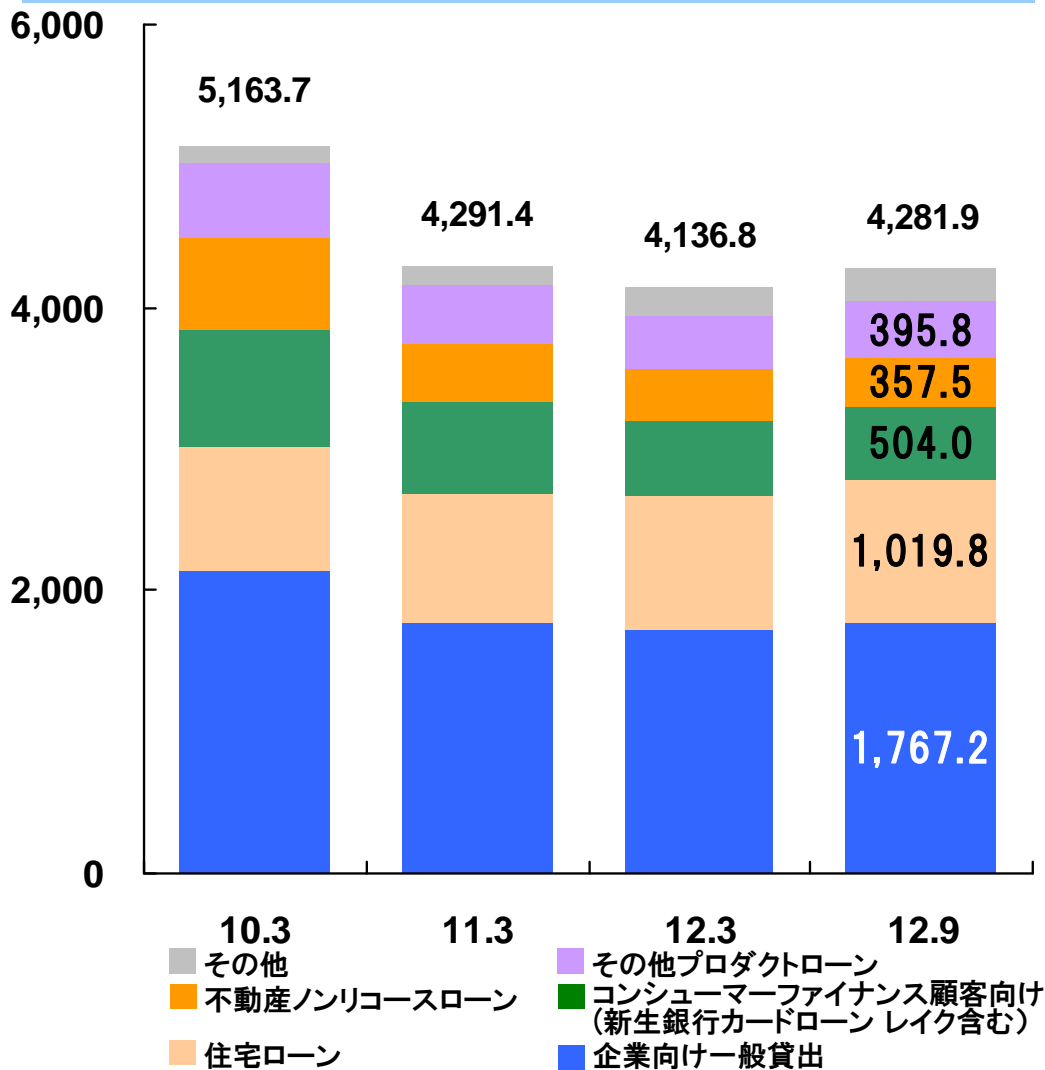
非経常的な損益要因	2011年度 通期 (12ヶ月)	2011年度 中間期 (6ヶ月)	2012年度 中間期 (6ヶ月)
業務粗利益に含まれる項目	6.3	6.3	-
ノコア資産関連の大口の売却益	6.3	6.3	-
その他	1.1	-	-
主なプラス項目の合計(1)	7.4	6.3	-
業務粗利益に含まれる評価損や減損	-11.9	-8.2	-0.9
大口の上場株式の減損	-5.2	-5.2	-
国内不動産/ノリコース・ファイナンス関連社債の減損	-3.3	-2.2	-0.9
その他	-3.3	-0.7	-
与信関連費用に含まれる項目	-10.1	-3.0	-3.7
大口の法人関連の取崩益	17.2	-	-
スペシャルティファイナンス	-18.8	-	0.8
国内不動産/ノリコース・ファイナンス関連	-8.0	-4.7	-4.4
ノコア資産関連の大口の与信関連費用	-2.2	-	-1.2
その他	1.6	1.6	1.1
その他損失に含まれる項目	-33.1	-0.8	-
利息返還損失引当金繰入	-32.8	-0.8	-
その他	-0.2	-	-
税制改正の影響による法人税等調整額	-1.3	-	-
主なマイナス項目の合計(2)	-56.6	-12.1	-4.7
(1)+(2)	-49.1	-5.8	-4.7

バランスシート: 貸出金

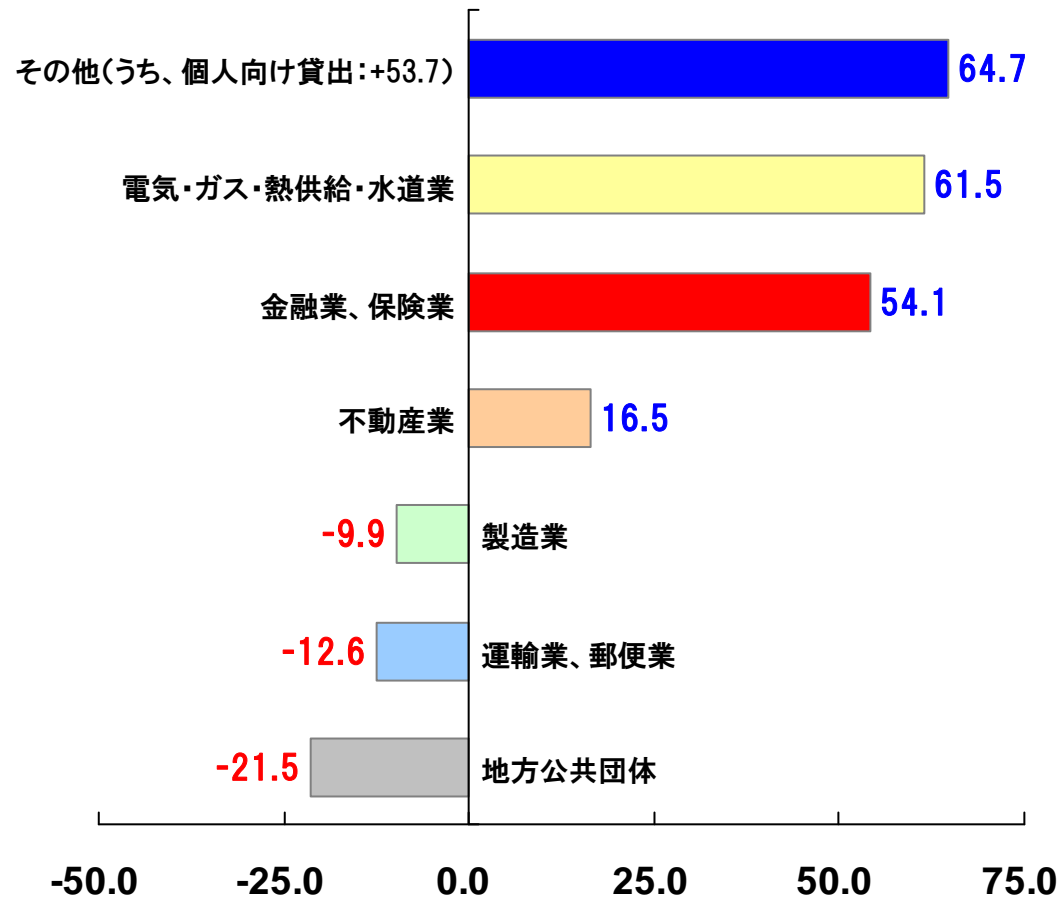
(連結、単位:10億円)

- 住宅ローンの大幅な伸長が個人向け貸出の増加を押し上げ
- 法人向け貸出は、国内資金需要に機動的に対応しつつ、海外の優良案件も積み上げ

貸出金のプロダクト別構成



業種別貸出、主な増減業種(2012年3月末比)

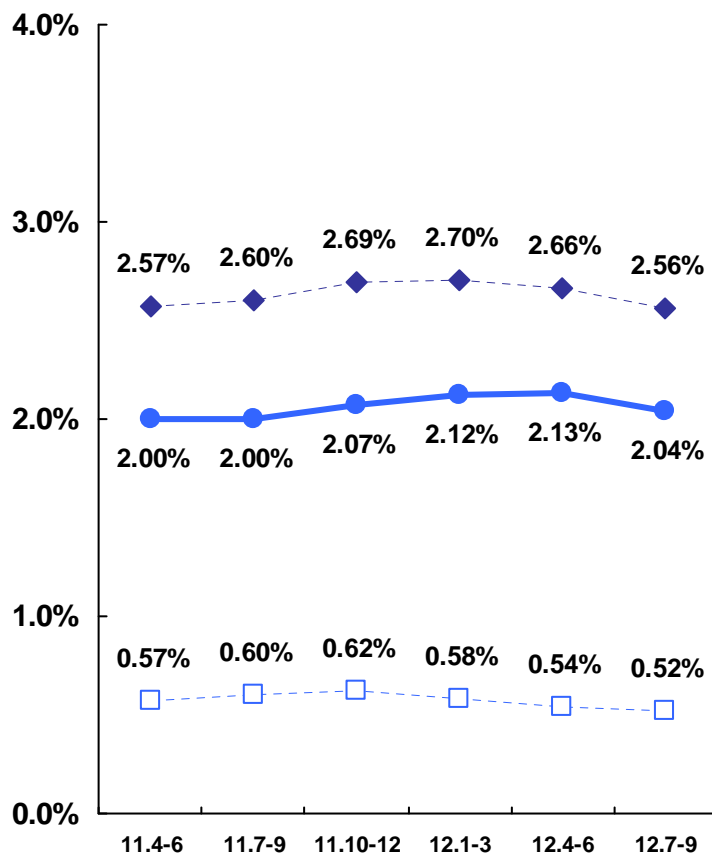


純資金利鞘: 2%超を確保

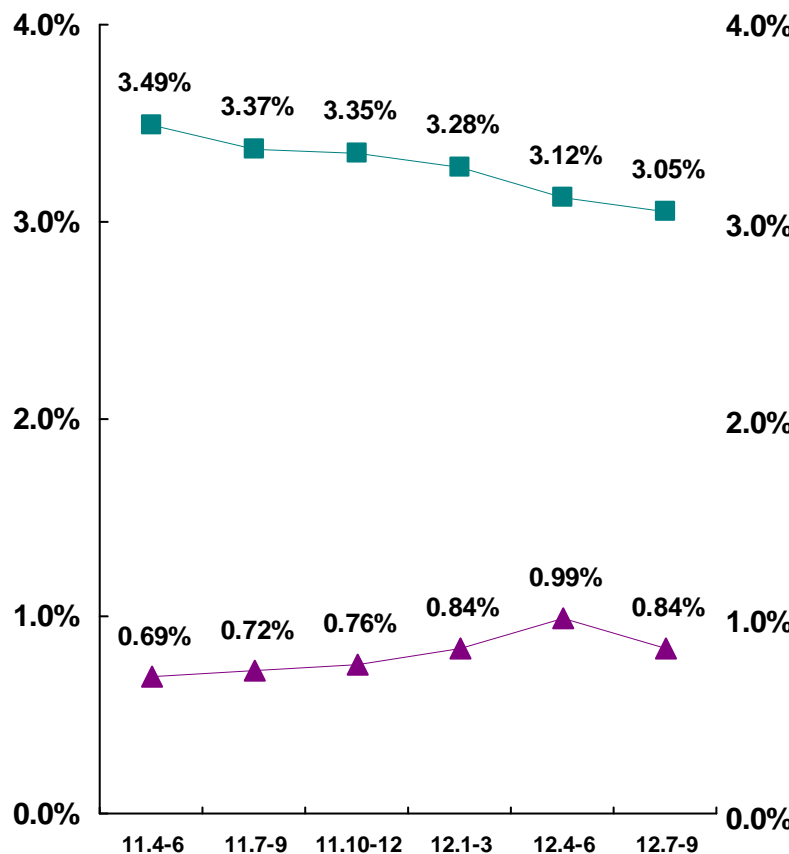
(連結、単位: 10億円)

- 国債残高の増加などにより資金運用利回りが低下するも、純資金利鞘は2%超を確保
- 資金調達利回りは預金・譲渡性預金の利回り低下により、引き続き改善

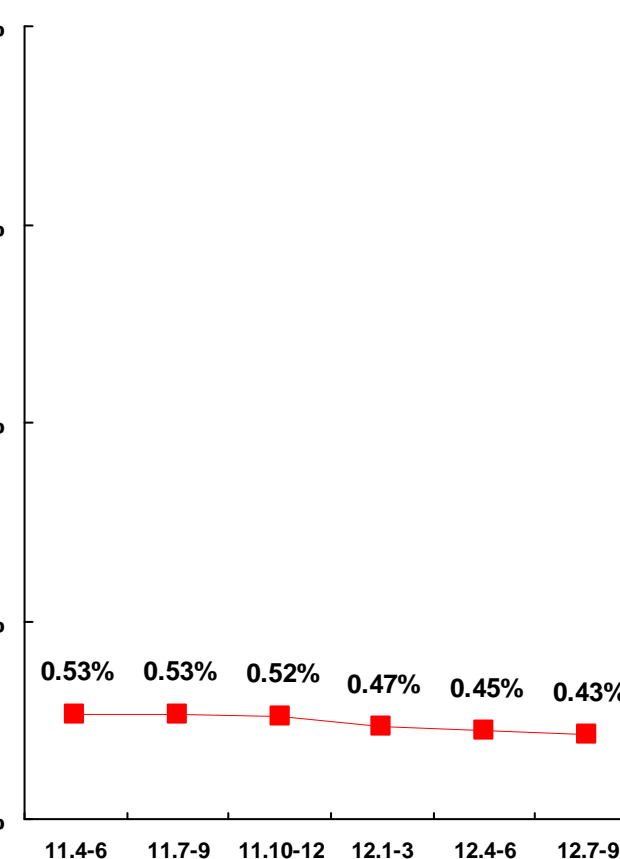
純資金利鞘(ネットインタレストマージン)¹



貸出金、有価証券の運用利回り



預金・譲渡性預金調達利回り



◆ 資金運用利回り¹ □ 資金調達利回り
 ● 純資金利鞘(ネットインタレストマージン)¹
¹ リース・割賦売掛金を含む

■ 貸出金利回り
 ▲ 有価証券利回り

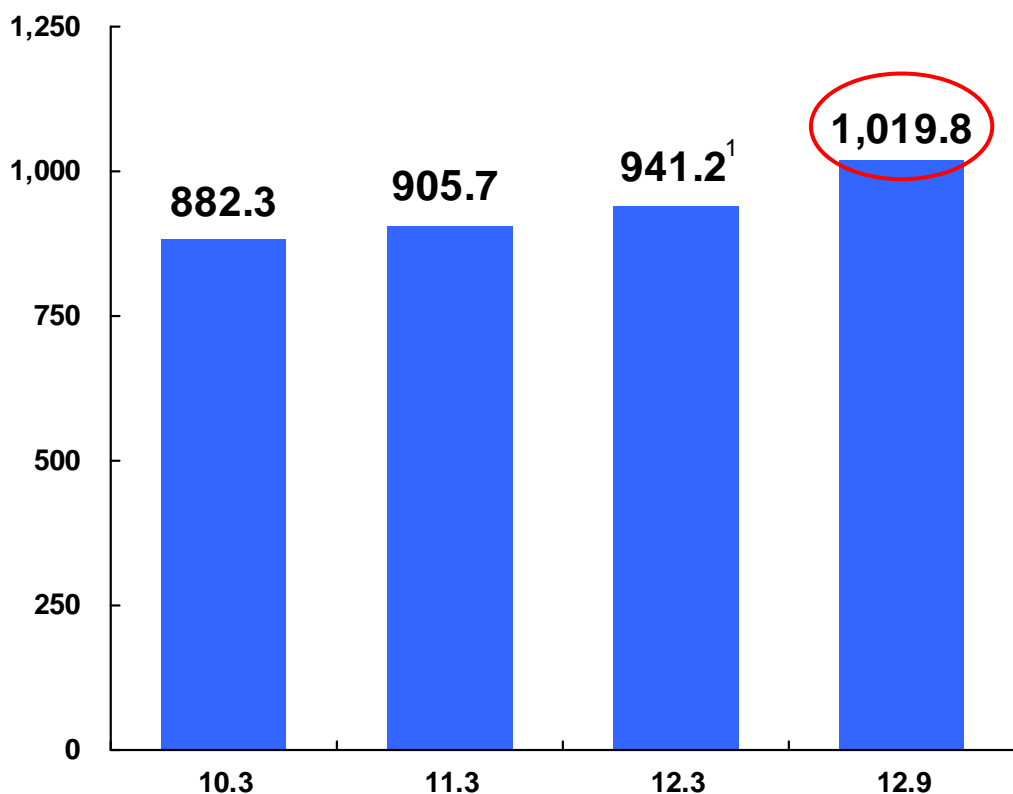
■ 預金・譲渡性預金利回り

ビジネスの概況：リテール住宅ローン

(単位:10億円)

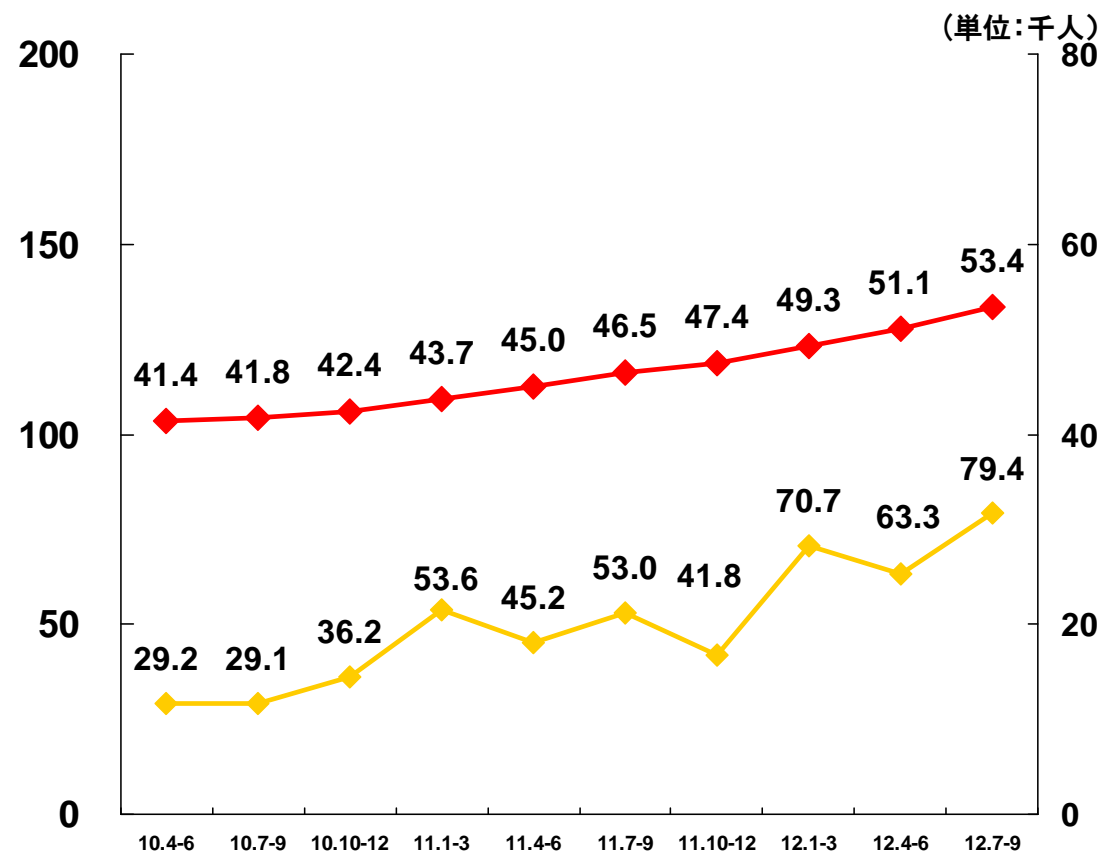
- 利便性の高い商品性により、住宅ローン残高を順調に積み上げ、初めて1兆円を突破
- 顧客数は引き続き増加し、それに合わせて新規実行額も堅調に推移

住宅ローン残高



¹ 2011年度第2四半期に、子会社の住宅ローン債権を一部売却

新規実行額と顧客数の四半期推移



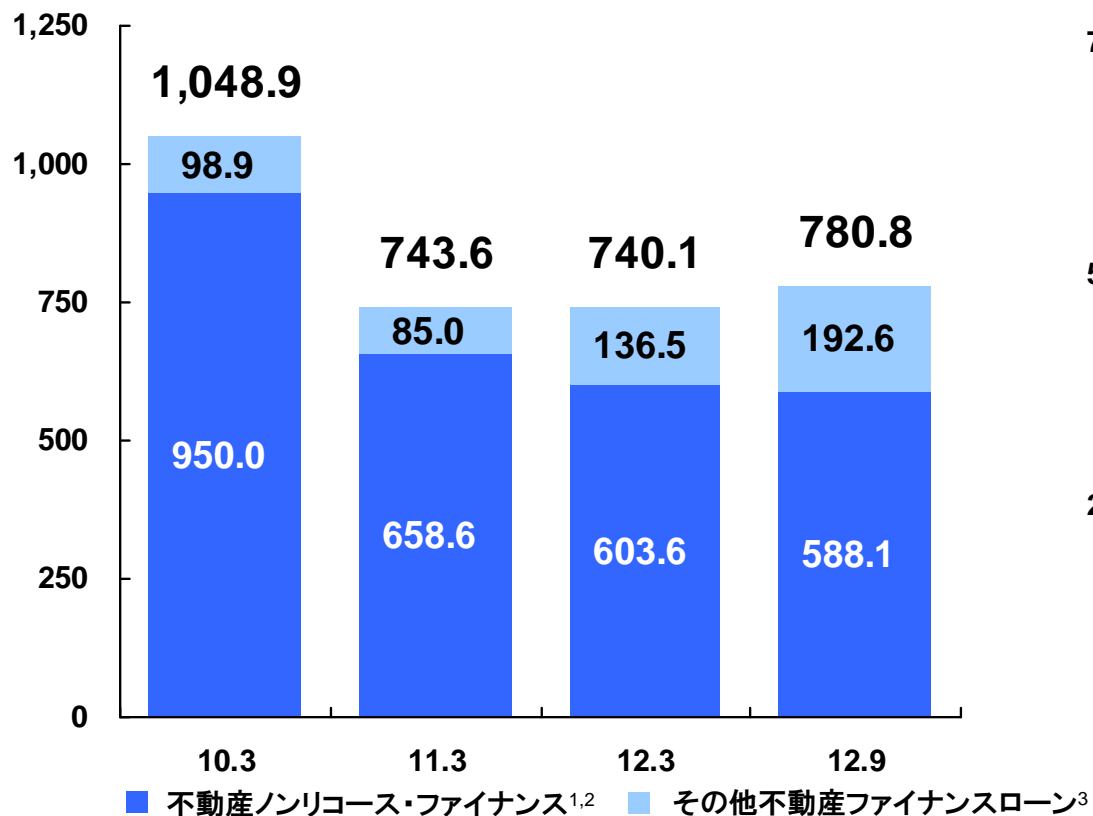
- ◆ パワースマート住宅ローン顧客数(千人)(右軸)
- ◆ 新規実行額(左軸)

ビジネスの概況：不動産ファイナンス

(単位:10億円)

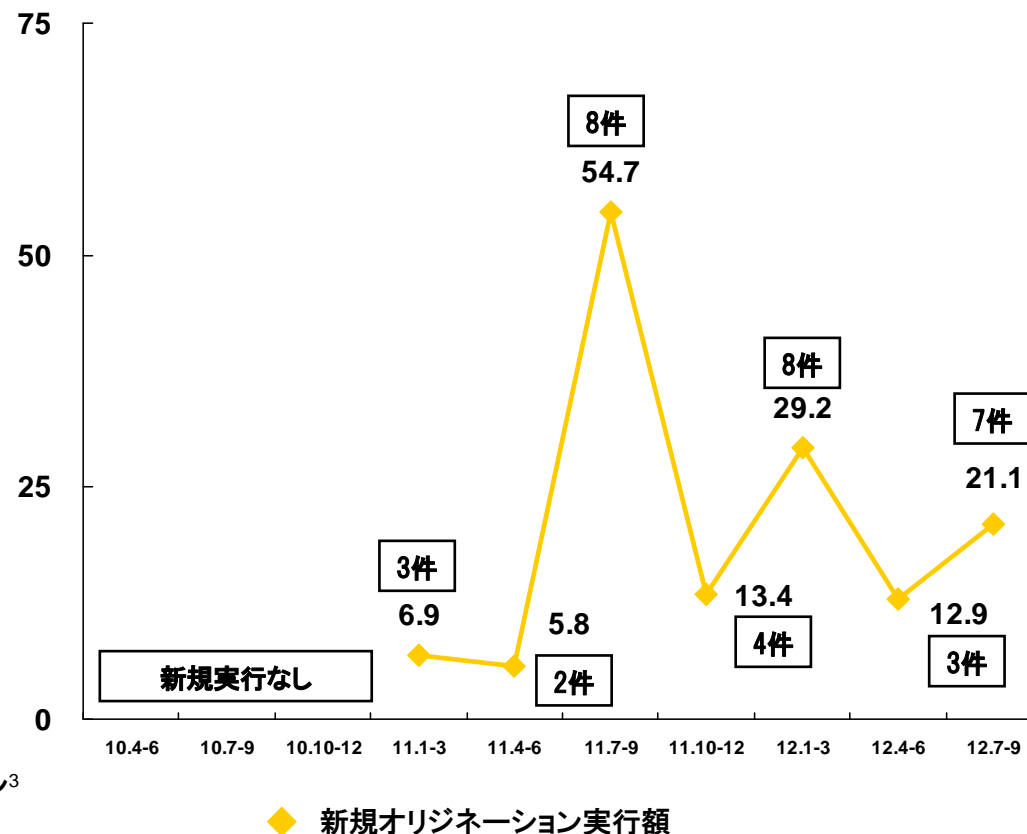
- 不動産ノンリコース・ファイナンスは新規案件を慎重に選別しながら実行
- 不動産法人向けおよび不動産投資法人(REIT)向け貸出残高が引き続き伸長

不動産ファイナンスの残高推移



¹ 不動産ノンリコース・ファイナンスには、私募債および買入金銭債権などによる形態も含まれる
² 2011年度に連結消去となった分(245億円)は除く
³ その他不動産ファイナンスローンには、不動産法人向けおよび不動産投資法人(REIT)向け貸出が含まれる

不動産ノンリコースファイナンス
新規実行額の四半期推移



◆ 新規オリジネーション実行額

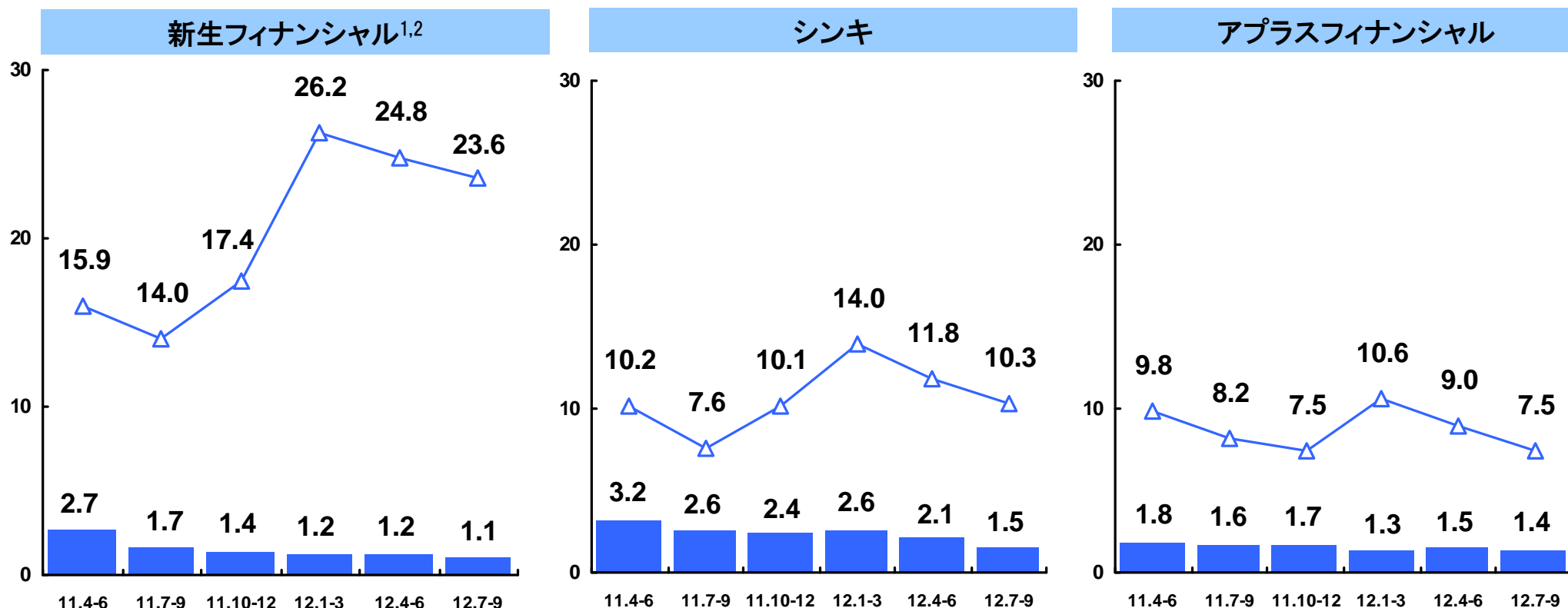
ビジネスの概況：過払利息返還

(単位:10億円)

- 利息返還額は低位推移が継続、シンキは前年同期比で4割減少
- 開示請求件数についても、長期的な減少トレンドが継続

(単位:千件)

開示請求件数	11.4-6	11.7-9	11.10-12	12.1-3	12.4-6	12.7-9
新生フィナンシャル	25.0	19.5	17.8	16.5	16.6	14.4
シンキ	4.1	3.1	3.0	2.7	2.8	2.5
アプラスフィナンシャル	4.2	2.9	2.9	2.6	2.7	2.4



¹ 新生フィナンシャルが保有する一定の資産は、利息返還請求を受けた場合、契約に従いGEが損失を補償。

利息返還額については、GEによる補償対象分とネットで記載。

² 利息返還損失引当金の取り崩しには、貸倒引当金取崩益で計上されているものが含まれています。 14

△ 利息返還損失引当金

■ 利息返還額

不良債権：着実に処理が進捗

(単体、単位：10億円)

- 不良債権残高は212億円減少し、不良債権比率も0.5ポイント低下(2012年3月末比)
- その他要注意先も2012年3月末比で400億円近く削減

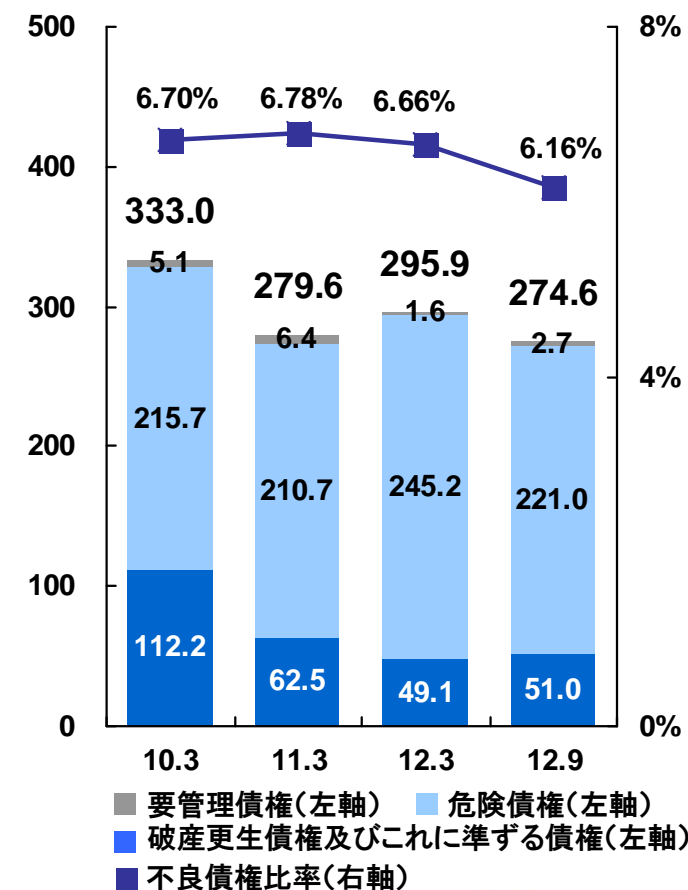
債務者区分別総与信残高と保全状況¹

(2012年9月末時点)

	残高(貸借 対照表計上額)	引当金	担保/ 保証	保全率	部分直接 償却額
正常先	3927.8	20.3			0.0
その他要注意先	255.3	14.6			0.1
正常債権 小計	4,183.1	34.9			0.1
要管理、破綻懸念先	223.7	71.0	144.8	96.5%	0.1
実質破綻、破綻先	51.0	3.9	47.0	100.0%	68.8
不良債権 小計	274.6	75.0	191.9	97.2%	68.8
総与信残高合計	4,457.8	109.9			69.0

¹ 金融再生法に基づく総与信に対する保全

金融再生法に基づく開示不良債権残高、不良債権比率

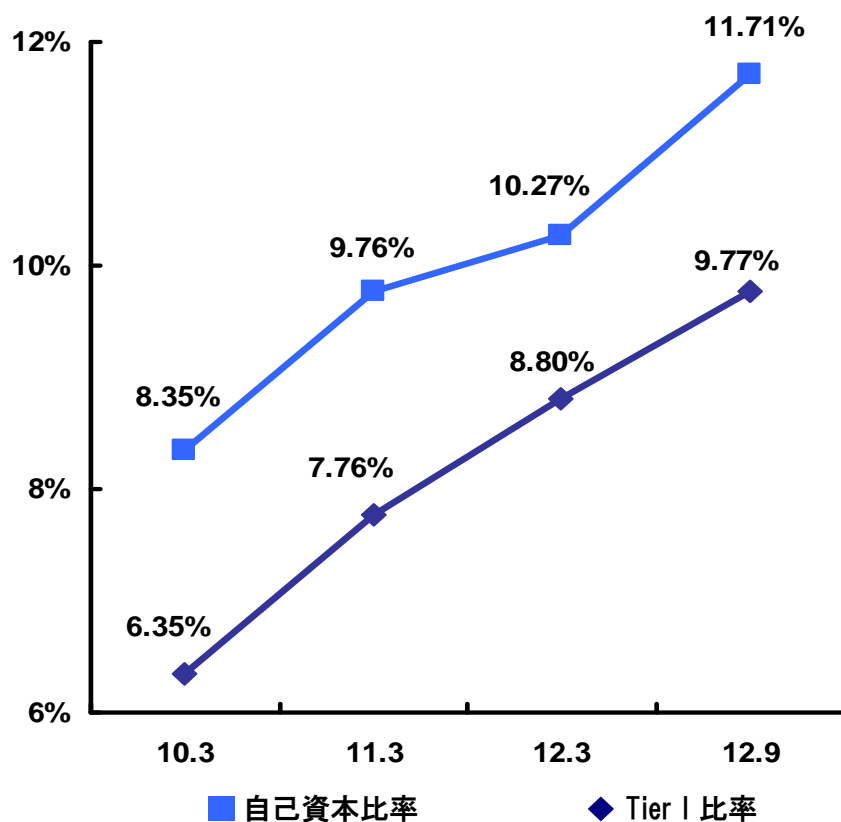


資本：利益の積み上げにより十分な資本水準を維持

(連結、単位：10億円)

- 利益の着実な積み上げと自己資本控除項目の減少により資本が増加
- 資産の質の改善によるリスクアセットの減少も比率向上に寄与

自己資本比率の推移(バーゼルIIベース)



資本の内訳と比率

	2012.3 (バーゼルII ¹)	2012.9 (バーゼルII ¹)	2012.9 (バーゼルIII 推計値 ²)	中計(目標) (バーゼルIII)
普通株等Tier I			561.3	
その他 Tier I				
基本的項目(Tier I)	537.1	573.8	561.3	
補完的項目(Tier II)	197.0	186.4	110.1	
控除項目	-107.2	-72.4		
自己資本額	626.9	687.8	671.4	
リスクアセット	6,102.5	5,869.2	6,300.4	
自己資本比率	10.27%	11.71%	10.7%	10%
			推計値:	
普通株等Tier I比率			8.9%	5%
Tier I 比率	8.80%	9.77%	8.9%	7%

¹ バーゼル2.5によるStressed VaRを含む

² 本推計値は、算出時点の入手可能な情報に基づき当行が試算したものの、2012年9月末の試算は国際統一基準での試算

レイクビジネス1年を振り返って

レイクビジネス:戦略と1年間の成果

- 相対的に成長市場である個人向け銀行無担保ローン市場で、従来同様のリスク層の顧客を対象として、銀行品質で簡単・便利なサービスを構築
- 与信戦略に関しては、データの集積が進み、貸金業法の趣旨を踏まえながら円滑に資金需要に応えられる態勢を整備

戦略

- 新生銀行カードローンレイク
 - ✓ 従来の顧客層からの獲得を継続しつつ銀行としての信頼感を醸成する事により新たな顧客層を開拓する
 - ✓ 与信戦略の最適化により収益の最大化を図る
- 新生フィナンシャル
 - ✓ レイク事業で得られた知見・データを梃子に他行との連携による信用保証業務を拡大
 - ✓ 既存顧客へのサービス対応のブラッシュアップを図り、リテンション重視の戦略の先鋒に

1年間の成果

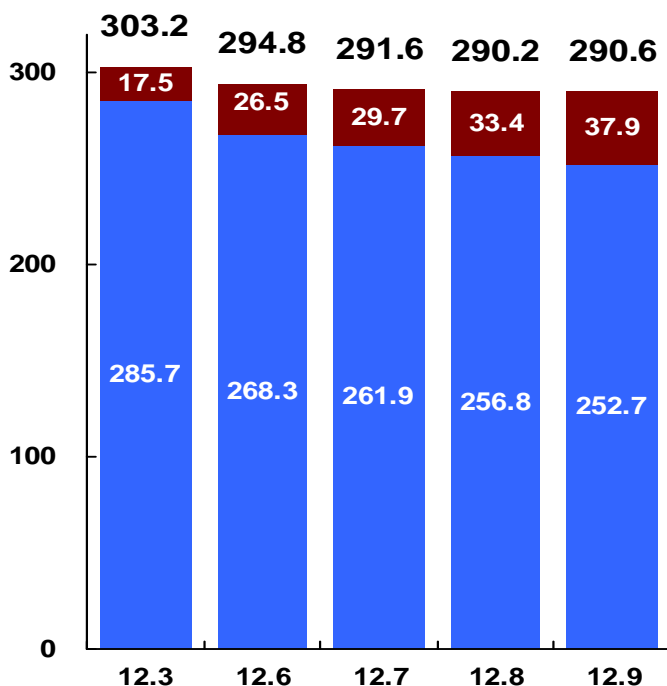
- 新生銀行カードローンレイク
 - ✓ 従来の顧客層からの獲得は好調を継続
 - ✓ あわせて、当行リテール・バンキングとの協業により、新顧客層獲得に向けた知見を得る
 - ✓ 与信戦略のファインチューニングを機動的に実施
- 新生フィナンシャル
 - ✓ 地銀提携は累計で6行に、今後大型案件も含めますますの拡大を目指せる環境が整う
 - ✓ 顧客維持率に関して大幅な改善あり

レイクビジネス:1年間の実績

- 新生銀行カードローン レイクの残高、新規獲得顧客数は順調に進捗
- 新生フィナンシャルと新生銀行カードローン レイクを合算した2012年9月末の残高・顧客数は、単月比較ではあるものの、6年ぶりに反転

新生フィナンシャルおよび新生銀行カードローン レイク個人向け無担保ローン残高

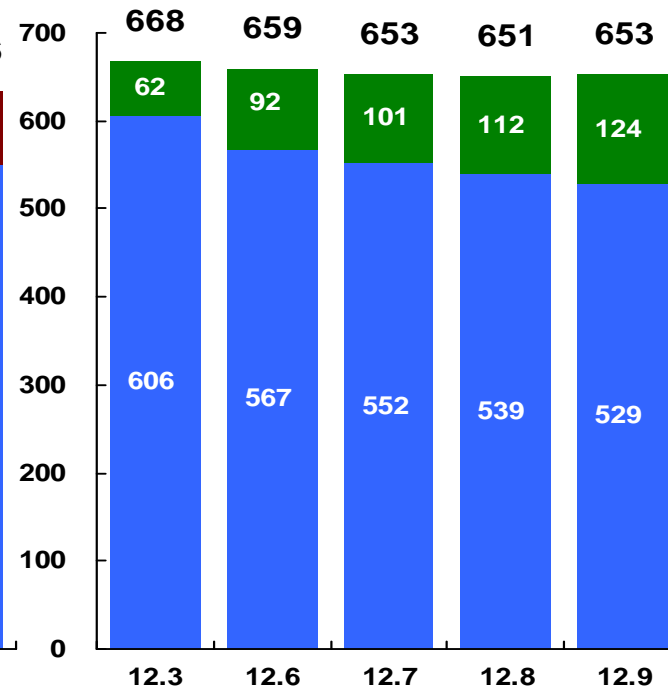
(単位:10億円)



■ 新生銀行カードローン レイク
■ 新生フィナンシャル

新生フィナンシャルおよび新生銀行カードローン レイク顧客数

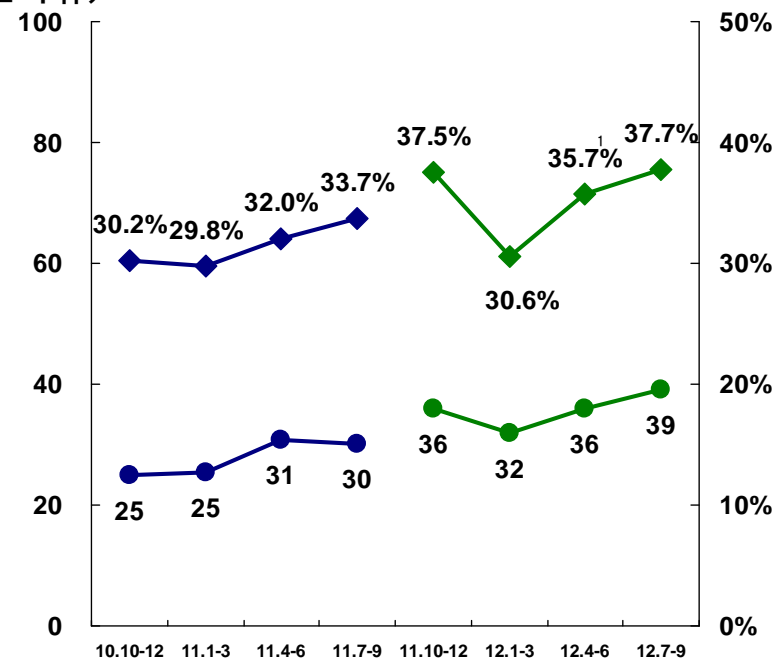
(単位:千件)



■ 新生銀行カードローン レイク
■ 新生フィナンシャル

新規獲得顧客数と成約率の四半期推移

(単位:千件)



新生フィナンシャル:

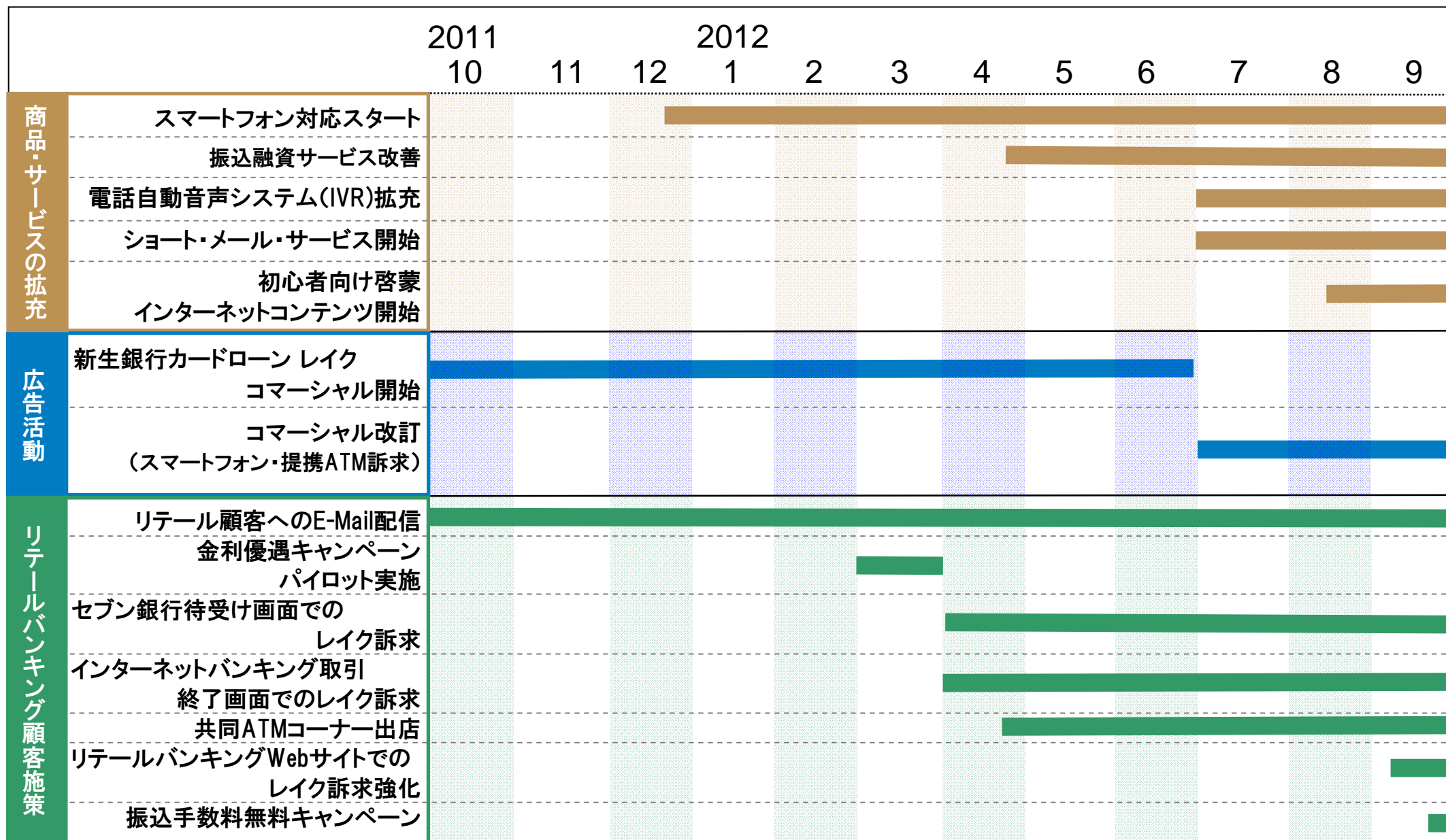
● 新規顧客獲得数(左軸)
◆ 成約率(%) (右軸)

新生銀行カードローン レイク:

● 新規顧客獲得数(左軸)
◆ 成約率(%) (右軸)

¹ 2012年度第一四半期の発表数値を修正しております。

新生銀行カードローンレイク:1年間のマーケティング実績



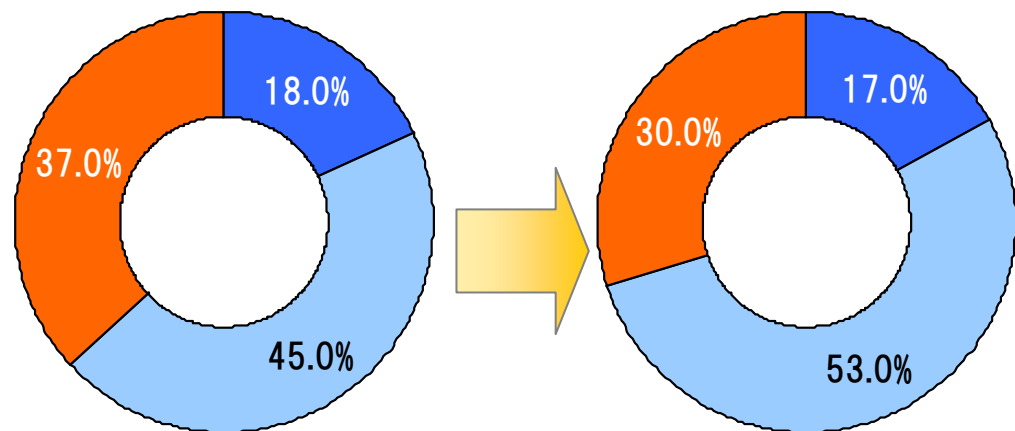
新生銀行カードローンレイク:顧客属性

- 申込チャネル: この1年間は、下記サービス機能の拡充等により、インターネットによる申込が伸長
 - ✓ スマートフォン対応
 - ✓ 電話自動応答システム(IVR)の拡充
 - ✓ ショートメールサービスの導入
- ATMチャネル: 提携(セブン銀行)ATMが伸長し、当行リテールバンキングATMの利用も増加。手数料無料の訴求や新生「銀行」を意識した顧客の行動によるものと推測

申込チャネルの動向

新生フィナンシャル時代(参考値)
(2010年10月～2011年9月)

新生銀行カードローンレイク
(2011年10月～2012年9月)



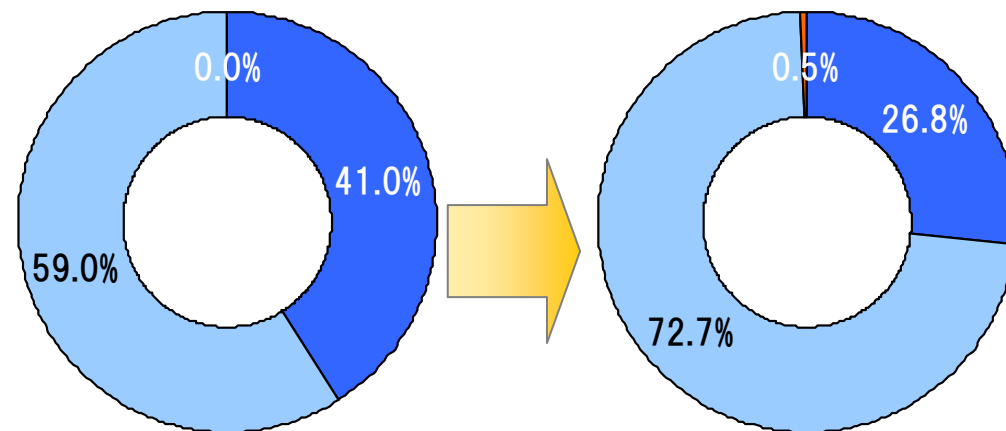
■ 電話 □ インターネット ■ 自動契約機

■ 電話 □ インターネット ■ 自動契約機

ATMチャネルの動向

新生フィナンシャル時代(参考値)
(2010年10月～2011年9月)

新生銀行カードローンレイク
(2011年10月～2012年9月)



■ レイク □ 提携 ■ 当行リテール

■ レイク □ 提携 ■ 当行リテール

新生銀行カードローンレイク:リテール・バンキングとの取組み

目的

- 個人向け総合金融サービスにおける新たな展開への足がかり
 - ✓ 銀行本体にて個人向け無担保ローンに本格的に取り組むことで、新たな個人向け事業領域を創出
 - ✓ リテールバンキングと連携し、さらに価値ある商品やサービスの提供に取り組む
- リテールバンキング顧客へのテスト(パイロット)マーケティングを通じて、当該顧客層に関する知見を得る

概要

- リテールバンキング顧客への認知度向上施策
 - ✓ セグメント化したe-DMの発信によるテスト&ラーニング
 - ✓ リテールバンキングの顧客接点におけるレイク商品の告知トライアル(ATM、インターネットバンキング等)
- リテールバンキング顧客のニーズに合致したキャンペーンの開発
 - ✓ 金利優遇キャンペーン、振込手数料無料キャンペーン等

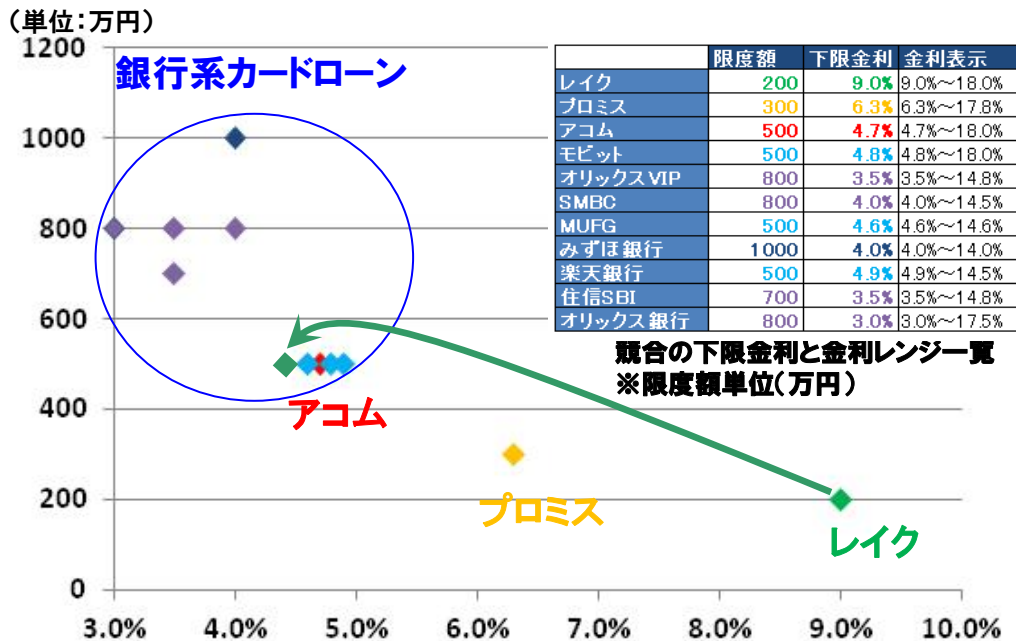
成果

- 当行リテールバンキング顧客からのローンカードへのニーズが安定した水準で存在し、コンスタントな申込・成約が望めること
- リテールバンキング顧客の特性として以下が確認されたこと
 - ✓ 申込者のクオリティが高く、承認率が従来セグメントと比べて高い
 - ✓ 従来セグメントと比べて、年齢帯に広がりが見られる
 - ✓ 従来セグメントと比べて、年収が高い
 - ✓ 結果として、従来セグメントと比べて申込時に付与できる与信額が高い
 - ✓ リテールバンキングの商品ラインアップとしてローンカードを加える事により、収益面で追加の貢献が見込める

新生銀行カードローンレイク:今後の展開

- カードローン・レイク 1年の実績を踏まえ、11月下旬より下限金利と融資上限額を改定
- 銀行系カードローンに対しても競争力のある金利/限度額を設定する事により、銀行系カードローン利用層からの顧客獲得拡大を目指す
- 同施策の開始時期にあわせ、従来からのボリュームゾーン(男性20~34歳)層に人気上昇中の菜々緒さんを新キャラクターに採用し更なる認知向上を図る

上限限度額と下限金利のポジショニング



※2012年6月末現在
出典:各社ホームページ

新キャラクター&商品告知

選ぶなら、
新生銀行のレイク!
でしょ♪

レイク ちゃーん♪

期間限定! 契約額1~200万円の方! **3/31**まで

初めてなら!
お借入額のうち5万円まで!
180日間利息¥0

初めてなら! お借入額全額!
30日間利息¥0

セブン銀行で、ATM手数料**¥0**

金利下がりました!
4.5~18.0% 1~500万円まで

今なら! QUOカード**1,000円**分プレゼント!

0120-09-09-24

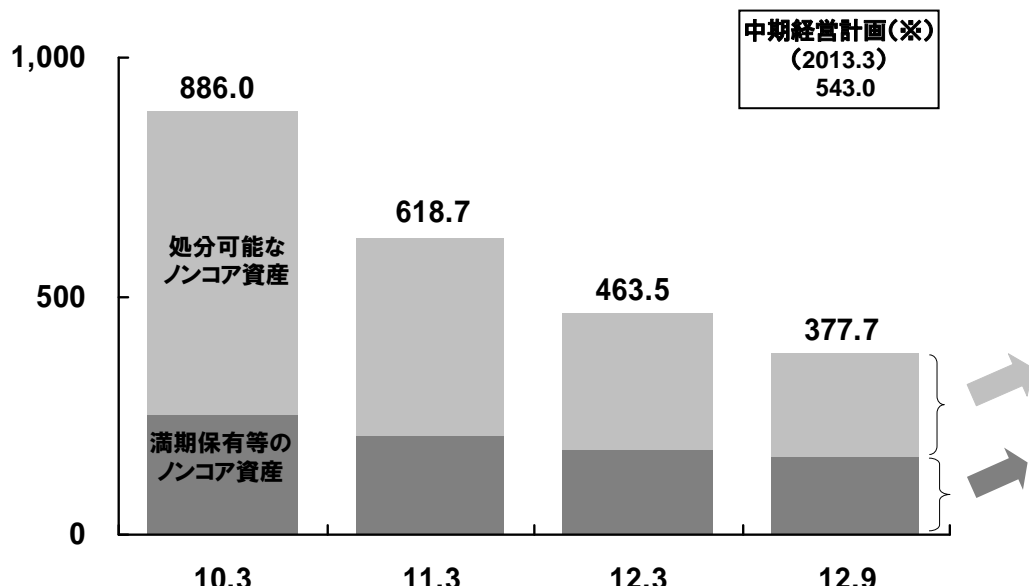
別添

ノンコア資産：中計目標を達成し、コア業務へ注カシフト

(単位:10億円)

- ノンコア資産の削減は、中計目標を大幅に上回るペースで達成
- 残存するノンコア資産から大きな損失が発生するリスクは限定的

ノンコア資産の残高推移



※ 中期経営計画期間(～2013年3月)に、処分可能なノンコア資産の約50%を削減

ノンコア資産のタイプ別、地域別内訳

(2012年9月末時点)

残高 (2012.9)	地域別内訳				小計
	北米	欧州	アジア他	国内	
貸出	5.3	22.3	0.9	28.3	① 56.9
有価証券等	38.2	54.7	37.2	27.5	② 157.8
処分可能なノンコア資産 (1)	43.5 ③	77.1	38.2	55.9	214.8
貸出	-	-	-	-	-
有価証券等	30.1	8.8	-	123.9	162.9
満期保有等のノンコア資産 (2)	30.1	8.8	-	123.9 ④	162.9
ノンコア資産 合計 (1)+(2)	73.6	85.9	38.2	179.9	377.7

ノンコア資産による業績への影響は限定的

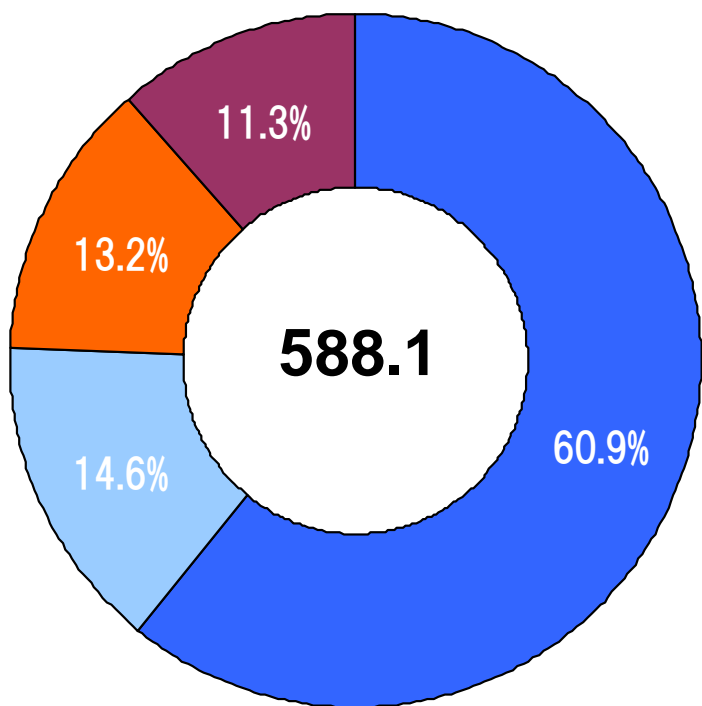
- ① 貸出に占める不良債権は118億円のみ(うち、アセットバック投資が112億円で、保全率96%)
- ② 処分可能なノンコア資産における時価のある有価証券の評価差額は、プラス約16億円(2012年9月末)
- ③ 処分可能なノンコア資産における欧州のエクスポージャーのおよそ半分は、独国と英国
- ④ 満期保有等のノンコア資産の大宗が、国内購入住宅ローン。残りはCLO

不動産ノンリコースファイナンス：地域別・物件別内訳

(単位：10億円)

地域別内訳

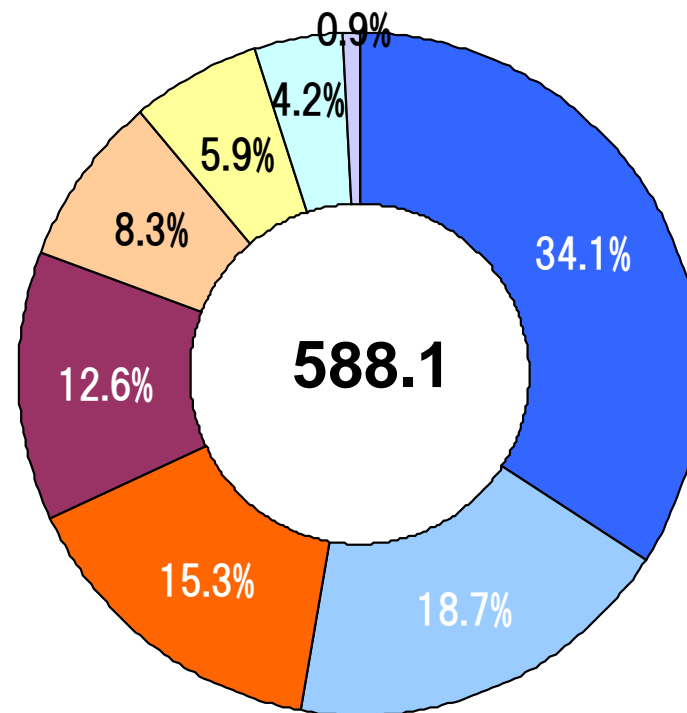
(2012年9月末)



- 関東(主に東京)
- 多地域型
- 関西(主に大阪)
- その他地域

物件別内訳

(2012年9月末)



- オフィス
- 土地
- ホテル
- 工場用、パーキング、その他
- 商業施設/店舗
- 居住用
- 分散型
- 開発用

2012年度主要ニュース

第1四半期 (2012年4月～6月)

- 4月25日: 「新生銀行カードローン レイク」自動契約機を当行ATMコーナーに設置
- 6月12日: ロイズ・バンキング・グループの日本における海外送金業務の譲り受けで合意
- 6月25日: 人民元、ブラジルレアル、トルコリラの取り扱いを開始(取扱通貨は13通貨に拡大)

第2四半期 (2012年7月～9月)

- 7月 2日: 株式会社gumiとのアジアを中心としたモバイルエンタテインメント企業向け投資ファンドを共同で設立
- 7月19日: 新生銀行グループ、マンチェスター・ユナイテッドの提携カードを日本で発行
- 7月23日: アプラスが「Tポイント付きアプラスオートクレジット」の取扱を開始
- 7月30日: インドの商業銀行YES BANKと法人業務に関する包括的な業務提携契約を締結

第3四半期 (2012年10月～12月)

- 10月1日: 2012年9月末の住宅ローン残高が1兆円を突破
- 10月12日: 「ふくしま成長産業育成投資事業有限責任組合」にNECキャピタルソリューション株式会社ほかと共同で投資
- 10月26日: 第4回期限前償還条項付無担保社債(劣後特約付)を発行
- 11月1日: アプラスが「Tポイント付きアプラス家賃サービス」の取扱を開始

第4四半期 (2013年1月～3月)

免責条項

- 本資料に含まれる当行の中期経営計画には、当行の財務状況及び将来の業績に関する当行経営者の判断及び現時点の予測について、将来の予測に関する記載が含まれています。こうした記載は当行の現時点における将来事項の予測を反映したものです。かかる将来事項はリスクや不確実性を内包し、また一定の前提に基づくものです。かかるリスクや不確実要素が現実化した場合、あるいは前提事項に誤りがあった場合、当行の業績等は現時点で予測しているものから大きく乖離する可能性があります。こうした潜在的リスクには、当行の有価証券報告書に記載されたリスク情報が含まれます。将来の予測に関する記載に全面的に依拠されることのないようご注意ください。
- 別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般に公正妥当と認められている会計原則に従って表示されています。当行は、将来の事象などの発生にかかわらず、必ずしも今後の見通しに関する発表を修正するとは限りません。
尚、特別な注記がない場合、財務データは連結ベースで表示しております。
- 当行以外の金融機関とその子会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本資料はいかなる有価証券の申込みもしくは購入の案内、あるいは勧誘を含むものではなく、本資料および本資料に含まれる内容のいずれも、いかなる契約、義務の根拠となり得るものではありません。